

# 學士會報

GAKUSHIKAI KAIHO November No.891 2011 - VI

● 特集 「関西」



# 學士會会報

第 8 9 1 号

# 会報 第八九一号 目次

頁

関西経済の現状と未来……………下妻 博…4

関西発のイノベーションの要……………西尾 章治郎…11

——ナレッジキャピタル——

大阪ステーションの開業……………近藤 隆 士…16

関西を歩く……………安藤 忠 雄…23

「古い政治」から「新しい政治」へ……………坂元 一 哉…27

北朝鮮、中国の動向と我が国の安全保障（七月夕食会講演）……………西元 徹 也…32

韓国FTAから見える課題……………保母 武 彦…44

無関心な《神々》の陰謀（六月夕食会講演）……………龜山 郁 夫…49

——ドストエフスキーと現代——

平衡老 化 ..... 佐々木 英 忠 62

エネルギー生成系で知る病気の成り立ち (五月午餐会講演) ..... 安 保 徹 68

ボランティア行動学と東日本大震災 ..... 渥 美 公 秀 78

映画『かいじゅうたちのいるところ』をめぐる断章 ..... 伊 東 信 宏 83

●青雲はるかにー帯津三敬病院の窓から 第八回 ..... 帯 津 良 一 88

攻めてときめく太極拳 ..... 鈴 木 博 之 91

●お雇い建築家 ジョサイア・コンドルの実像V ..... 鈴 木 博 之 91

コンドルの庭園そして植治 ..... 鈴 木 博 之 91

博物館だより (東洋文庫ミュージアム) ..... 牧 野 元 紀 96

第五十回全国七大学総合体育大会 ..... 牧 野 元 紀 96

学をつぶやき「大阪ステーションシティの見どころ」 ..... (事務局編) 108

草 樹 会 詠 草 ..... 110 ..... 夕食会・午餐会ご案内 ..... 124

短 歌 会 詠 草 ..... 112 ..... 学士会の歴史(ぼれ話⑬) ..... 114

裁 錦 會 詩 草 ..... 115 ..... 事 務 局 か ら ..... 127

同 好 会 だ よ り ..... 118 ..... 理事長のつぶやき2 ..... 128

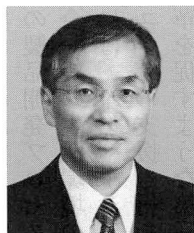
新 会 員 氏 名 ..... 123

表紙・解説 西 野 嘉 章

特集  
「関西」

## 関西発のイノベーションの要

—ナレッジキャピタル—



西<sup>にし</sup>尾<sup>お</sup>章<sup>しょう</sup>治<sup>じ</sup>郎<sup>ろう</sup>

関西が大きく変わります

二〇〇〇万人以上の人口を擁し、世界の主要国一ヶ国におよぶ経済圏である関西。また、世界に誇る歴史・文化を有する関西。その中央に毎日二五〇万人以上の人々が行き交い、京阪神都市圏の中核といえる大阪駅、梅田地区があります。大阪駅の北側でコンテナヤードなどとして利用されてきた二四haの広大なエリア、まさに「都心に残された最後の一等地」の再開発が関西における二一世紀の一大事業として推進され、各方面から大きな関心が寄せられています。本年二月二日にはこの再開発地区全体が「うめきた／梅北」と

命名され、その中で先行的に開発工事が開始されている地区（七ha）が、「再来年（平成二五年）春に新たな街として誕生します。この「うめきた」で、関西が大きく変わり、新しい時代が動き出します。

その先行開発区域のさらに中核エリア（二・五ha）に、街開きと同時に世界の「知」が集まり、交わり、人々を惹きつけていく拠点「ナレッジキャピタル」がオープンします。このナレッジキャピタルは、ナレッジプラザ「交流・発信の場」、ナレッジシアター「創造の成果発信の場」、サイバーアートセンター「アートとテクノロジーの融合による研究開発成果の展示の

場」、フューチャーライフシヨールーム「未来生活提案の場」、（仮称）大阪オーブン・イノベーション・ヴィレッジ「知的創造・人材育成の場」など、ほぼ一〇を数える「場」の集合体で構成されます。

### イノベーション創出に必要な三つのステップ

イノベーションを起こすために第一に求められるのは、当然のことながら技術的な革新です。ただし、それだけではイノベーションは起きず、その技術革新を社会、市民に還元する、例えば、ユーザを巻き込んで新製品などを開発し、生活環境の革新を促す第二のステップが不可欠です。

実は、それでもまだイノベーションは起きません。その製品開発プロセスを国際標準にする活動を通じて社会一般の生活環境の革新を世界規模で実現する、さらには、イノベーションを阻害する法規制の改定などをユーザの支援も得ながら実現し、社会的な仕組みの改革を促すような第三のステップが不可欠です。これから三つのステップを次々と踏んでいくことにより、二一世紀における真のイノベーションが創出されます。

### イノベーションを起こす「場」の提供

ナレッジキャピタルは、「あつまる」、「まじわる」、

「つくる」、「みせる」という四つの機能を総合的に実現することを目指しています。単に最新技術のショールームになってしまうと、展示物の更新時期にしか人は集まらず、イノベーションを創出する「場」として機能しません。イノベーション創出に必要な第二、第三のステップのためにも、地域・社会の人たちによる参加型の「まじわる」、「つくる」場を提供することが重要です。その場に行けば、その場の一員として温かく迎えられ、自分が活かされて、あらたなモノ、あらたな仕組み「つくり」に参加でき、イノベーション創出に生き甲斐を感じることができる空間の構築が不可欠です。

ナレッジキャピタルの「場」の構成で述べたように、このエリアでは、多様な機能と施設が連携し、知的交流を促し、分野を超えた人々の出会いをサポートし、生活者と企業が一步先の未来を共創する仕掛けが施されています。街開き以後、その仕組みを十分に活かして、関西発の具体的なイノベーション創出の成功例を作り出す準備が整っています。

### イノベーション創出における「アートの力」

ユーザ、生活者を巻き込んだイノベーションの創出には、多様なユーザのニーズをシステマ的視点から捉

え、しかもグローバルな立場からの技術開発が重要で  
す。その過程においては、科学技術を芸術創造、つま  
り、匠の「技」にまで結びつけてきた我が国の優位性  
を活かすことが、創造性を発揮する上で大きな糧とな  
ります。

芸術は「何かを表現する」という前提以外に何の拘  
束もない概念であり、また、表現すること自体  
が、目的から今何をすべきかを決定するのではなく、  
曖昧なイメージの共有のなかで必然的なソリューション  
を見出していきます。科学技術では「良し」とされ  
ない曖昧さを積極的に捉えていくその過程は、「無」  
から「有」を生む創造活動の根幹ともいえ、延いてはイ  
ノベーションを創起する鍵ともいうことができます。  
そもそも「芸術（アート）」も「技術（テクノロジー

ー）」も、ラテン語では *ars*（アルス）、古代ギリシャ  
の思想では *poiesis*（ポイエーシス…ものの製作、弁論、  
試作）という一つのカテゴリーに属するものです。そ  
のポイエーシスにおいて共通して働く「知」こそが  
「テクネー」と呼ばれ、それが今日のテクニクやテ  
クノロジーの語源となっています。

日本は、職人（匠）の手業がきわめて秀でた国であ  
り、また、その特性を建築からデザイン、アニメとい  
った芸術創造にも発揮したことによりきわめて高度な  
達成を見た国として、世界から高い尊敬を得てしまし  
た。このように日本は、技「術」と芸「術」の類いま  
れな結合を実践している国として世界を先導しうる立  
場があり、激しい国際競争の中で、この歴史的な特性  
を日本発のイノベーションを起こすために十分に活か

していくことが求められます。ナレッジキャピタルでは、芸術家と技術者が互いの目的のために相手を自らの側に引き入れようとするのではなく、歴史的な特性に倣った自主発的（オートポイエーシス的）なマツチングをもたらしような空間の創出が重要です。

匠の「技」の宝庫である関西は、この国際競争に打ち勝つ「術」をもっています。そして、ナレッジキャピタルは、「術」を拠り所として「アート」と「テクノロジー」が融合し、新たな知的価値を創り出す大きな可能性を有しています。ナレッジキャピタル内に設置されるサイバーアートセンターは、そのような創造活動の成果を情報発信する「場」としての機能を果たします。

### 政府が主導する二大イノベーションは関西から

関西は環境問題解決を推進するメッカであるといえます。一九九七年一二月に国立京都国際会館で開かれた第三回気候変動枠組条約締約国会議（地球温暖化防止京都会議、COP3）で京都議定書（Kyoto Protocol）が採択されました。その意味で、京都は「環境理念都市」といえます。一方、大阪は、高度経済成長期には「煙の町」といわれた時代から今日までに、大気や水の汚染の問題を克服してきた「環境実践都市」

というに相応しいと考えます。

ナレッジキャピタルは、太陽光利用、燃料電池、熱電変換技術、グリーンIT（情報技術）など世界最先端の環境技術の研究開発、製造の一大集積地をバックに控えています。これらの個別の環境技術シーズを環境技術・製品として産業化・社会実装するためのシナリオ作りの拠点をナレッジキャピタルに設置することにより、その過程で蓄積されてきた最先端の環境技術を基盤にグリーン・イノベーションを起こす「場」が形成されます。

一方、大阪は「適塾」の歴史を引き継ぎ、最先端の医学、薬学、生命科学の拠点としての位置を占めてきましたが、今後はさらに工学、情報分野との連携を強めて「高齢者医療」、「介護医療」に関する研究開発、アウトリーチ活動、情報発信などが、市民との接点であるナレッジキャピタルで展開され、ライフ・イノベーションを起こす「場」が形成されます。

このように、現在、政府が主導する環境、ライフに関する二大イノベーションをオープンな形で展開するための拠点として、ナレッジキャピタル内に（仮称）大阪オープン・イノベーション・ヴィレッジを開設することが大阪市のリーダーシップにより進められています。



# 関西ネットワークの要としてのナレッジキャピタル

イノベーションを創出するための三つのステップを実行していくためには、関西の研究機関、企業、大学などが協働することが今まで以上に重要になってきます。「けいはんな」地区の（株）国際電気通信基礎技術研究所（ATR）、（独）情報通信研究機構（NICT）、（財）地球環境産業技術研究機構（RITE）などの研究所群、また、神戸地区の（独）理化学研究所、特に、計算科学研究機構（AICS）、さらには、池田市の（独）産業技術総合研究所など、関西に位置する多数の研究所との「リサーチ・ネットワーク」を強化し、その相互連携を深めて二大イノベーション創出にチャレンジすることが重要です。このリサーチ・ネットワークに加えて、関西の大企業、今まさに育ちつつある中

小企業群との「カンパニー・ビジネスネットワーク」の構築、さらには関西に位置する多くの大学の「アカデミア・ネットワーク」の構築を進め、それら三つのネットワークが相互に強く連携し、拡充していくことが関西を大きく変える原動力となります。

多くの人々が行き交うエリアに隣接するナレッジキャピタルは、三つのネットワークの相互連携で得られた卓越した成果の市民へのアウトリーチ活動の拠点としても最適です。ナレッジキャピタルがこれら三つのネットワークを結ぶ「要」の役目として有効に機能し出した時が、まさに関西発のイノベーションが起ころうといえましょう。

（大阪大学大学院情報科学研究科教授・京大・工博・工・昭50）